

2008年6月18日

川上ダムのダム長寿命化容量新設は不可解

経済的メリット：50年間で最低175億円

代替案を何故無視するのか？

委員 千代延明憲

高山ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダムおよび布目ダムの堆砂の排砂を、安く継続的に行うことを目的に、川上ダムに830万m³の容量を設けるという原案が昨年提示された。

これに対し、高山ダムの利水容量を活用すれば、川上ダムにダム長寿命化容量を新設することなく安く継続的に排砂が可能であるという代替案を提示した(委員意見 No.20)。代替案を実施した場合、経済的メリットだけでも50年間で最低175億円(現在価値に換算して155億円)があることも明らかにしている。

但し、この代替案を実施するには、主として大阪市の水利権、及び若干の大阪府の水利権が制約される。しかし、そのことは支障になるほどの制約でなく、十分対応できることを先般具体的に示した(委員意見 No.34)。

河川管理者は、委員会の運営経費が高いことが国会で取り上げられたことや今年度予算が残り少ないことを理由に、昨年8月の「見切り発車はしない」という重大な約束すら破棄しかねない状況にある。

河川管理者は、今はただ川上ダム建設事業を原案のまま整備計画案に盛り込むことばかりに目が向いているように思える。しかし、原案の審議は始まってからまだ1年も経っていない。浮き足立つことなく、真摯に検討すれば、委員会に要したコストを勘案しても、なお経済的な面だけでも大きなメリットを生み出すことは確かである。

委員会の7年に及ぶ新たな川づくりに向けての審議、並びに委員会と河川管理者との共同作業を矮小化して評価してはならないが、7年間に23億円もの経費という問題ばかりにスポットを当てるなら、委員会審議の成果の極一部ではあるが、ダム長寿命化容量代替案だけでも175億円のメリットがある。

最近、ある知事の発言にある厳しい委員会批判、これはとりもなおさず、否、委員会批判以上に河川管理者批判であるが、こうした批判に応える意味でも、河川管理者は、代替案を受け入れてほしい。もし受け入れられないなら早急にその理由を具体的かつ明快に示していただきたい。

以上